

桐蔭高等学校（中学校含む）

実施日時	① 平成30年5月1日（火）、②平成30年9月12日（水）
参加者	① 中学生239名、高校生833名教職員〇名 計1072名 ② 中学生約60名、高校生約140名、保護者約30名、一般来場者（卒業生含む）約50名 計約280名
実施内容	防災避難訓練、文化祭における防災に関する催し（下記詳細参照）

実施内容

○第1回 防災避難訓練

第1回は5月1日に全校生徒による防災避難訓練を通し、避難の重要性を学習させた。授業時間内に実施し、携帯電話を持参して避難。予告無し。事前に避難経路・方法を確認していたこともあり、落ち着いて各自の避難経路を通じて避難した。

○第2回 文化祭における防災に関する催し

第2回は9月12日文化祭初日に災害時対応に関する催し「防災スクール」を実施した。専用のブースを設置し、特別活動部職員の指導のもと生徒が参加した。当日は、文化祭に来校している保護者や卒業生、地域の方々も参加し、生徒と保護者、職員を交えながら活気のある防災行事となった。今年は特に、和歌山市の防災ホームページを活用し、ハザードマップ等の展示コーナーを設けた。また、校内に設置してあるマンホールトイレについても広報した。

事前の取組

○第1回 防災避難訓練

- ・職員会議で教職員の打ち合わせ
- ・各学年で教職員の役割分担の確認
- ・HRでクラスごとに避難経路・方法の確認

○第2回 文化祭における防災に関する催し

- ・教職員及び生徒会の役割分担の確認
- ・保護者や地域の方々に参加してもらうための事前アナウンス
- ・文化祭でのクラスや学年の出し物に影響が出ないよう時間調整

主なプログラム

○第1回 防災避難訓練

5月1日（火）中高全生徒により実施。昨年同様、今回も生徒への事前実施予告は無し。昨年から授業時間中の設定で実施しており前回は6限目であったが、今回は1限目の授業中に実施した。また、今年は緊急時に重要となる携帯電話を持参して避難するという指示を出した。1限目終了の5分前の午前9時40分に地震が発生、生徒ホールで火災が発生する中、津波警報が発令されたという想定のもと実施した。緊急避難放送が行われてから、中学校・高等学校生徒がグラウンドに完全避難するまでに要した時間は、9分40秒。登校後1時間弱での発生、また携帯電話はOFFの状態で鞆から取り出し避難するという、生徒にとっては想定外であろう指示となったが、生徒たちは比較的落ち着いて、柔軟に対応できていた。校長の講評では、指示通りに動くだけではなく、自ら率先して能動的に動くことの重要性を訴えかけた。

また、実施後は避難の様子を記録した動画を、インフォメーションスクエアと呼ばれる校内連絡用ディスプレイにて配信、本校のホームページにも記事と避難の様子などの写真を掲載し、より効果的で実際的な避難のあり方をフィードバックした。

有事に備え、「お・は・し・も」の実践徹底と、緊急事態の発生後、どのようなことが必要なのかを訓練等を通して考えさせていきたい。

○第2回 文化祭における防災に関する催し

災害用食料であるアルファ化米を用いた炊き出

し・配膳実習を行った。代表生徒と教職員、保護者が生徒ホール前の一角を利用し、熱湯を用いて調理。パック化した100食の「わかめご飯」、「五目ご飯」をホール前に特設したブースで、文化祭に参加している生徒や来校している保護者、卒業生、バザー参加者へ試食用に配膳した。数十分で配膳完了し、今回も生徒と保護者、卒業生ともに好評であった。また、展示パネルにて、和歌山市の防災マップやマンホールトイレの紹介を行った。緊急災害用の備蓄飲料水も同時に展示し、生徒、保護者の皆さんに公開することができた。

校内文化祭との共催であり、切迫感をともなった活動とはなりづらいが、備蓄食そのものに対する知識・理解を深めることができた。また、生徒、教員、保護者を交えての炊き出しや配膳活動を通して、「共助」の意識を高めるという観点でも有意義なものであった。



参加者感想文

熱湯は必要ですが、簡単な作業で、普段食しているご飯に匹敵する味に仕上がっていて驚きました。備蓄非常食というと冷たくて味も良くないイメージがあったのですが、そうではありませんでした。今回アルファ化米の炊き出しを見させていただいたので、将来、大きな災害時に遭遇し、実際炊き出しなどを行わなければならない場合には、率先して行動できそうです。

ただ、アルファ化米の炊き出しで、備蓄食そのものに関する知識は得られましたが、学校のどこに、あるいは県内のどこに備蓄倉庫があって、そこにどれだけの蓄えがあるのかといった情報も、もっと知っておかなければならないと思いました。

・・・見学生徒への聞き取りより

成果と課題

○「防災避難訓練」については、職員の振り返りにおいて一定の評価は得たが、以下の課題も上がっている。

- ・放課後やクラブ活動中の実施も必要ではないか。
- ・家庭や地域との連携の仕方をもっと考えたい。
- ・移動時には、危険ではあるが、「率先避難」をもっと徹底すべきである。
- ・避難時の携帯電話の活用は重要である(今回は、移動時に持参させたので意識させることは出来た)。
- ・避難後の対応も考えさせるべきである。

時間設定が大変難しいが、さまざまな仕掛けを入れながら、より実効性のあるものになるようさらに工夫をしていきたい。

○「防災スクール(アルファ化米炊き出し、配膳活動)」は、保護者、教職員も交え、生徒たちがシンプルにかつ主体的に防災意識を高められる活動としてたいへん有意義である。加えて、今後は、避難所設営といったより実践な分野についても活動を深めていきたい。

防災スクールに関わる様々な活動を通じて、生徒・保護者・教職員の防災に関する意識がより全般的に高まったように思われる。また、「自助」「共助」「公助」の意識をしっかりと持った地域防災リーダーを育成する第一歩として、今後もさらにこの防災スクールの内容を充実させていきたい。